

リトス是レ近日新設ノ水位尺ヲ以テ更ニ明白ナラントスル
ノ一事ナリ。川水低キ時ハ別宮川ニ溯リ第十村ノ堰埭ニ至
ル迄瀬汝ノ進派アルヲ覺知スヘク吉野川ノ下流ニ於テハ同
堰ヨリ凡ニ里ノ下ニ立ツ所ノ第六号水位尺ヲ際限トシ夫ヨ
リ上流更ニ采潮ノ感ナシ

灌溉用水ノ事

吉野川総谷地ニ一特賣トスル所ノ看ハ地質ノ奇ナル即之ナ
リ岩津ヨリ下ニ広敷スル平坦ノ地ト夫レヨリ上ニ高低起伏
スルノ地ト概シテ共ニ粗鬆ナル土壌ニ成レリ為メニ又シク
潤濕ノ氣ヲ留ムルニ善カラズ故ニ其地ヲ開キ稻田トナスニ
ハ甚タ適當ト云フ可ラズ。巧ニ水ヲ引テ灌溉ニ洪スルノ工
事ハ日本地他川ノ総谷地ニ於テハ比々之ヲ觀ル所ナレ此
地ニ至テハ然ラズ唯タ第十村ノ堰埭ヲ以テ其類ノ工事ト觀
フノ外ハ絶エテ之ヲ觀ズ今此堰埭ノ保存セラル、所以ノモ
ノハ其町府主トシテ下流洲嶼ノ水田ニアランカ。洲嶼及ヒ
遠近ノ峯内ニ幾許ノ水田アルヲ除、外ハ池田ヨリ下流海濱
ニ至ルノ総谷地ハ悉皆之ニ耕種スルニ藍草ヲ以テス。藍モ

洲嶼ハたがやしうえる

近、新設した水位尺の測定によって明白になるであろう事実の一つである。

川水の低い時は、潮汐が別宮川をさかのぼり、第十堰に至るまで浸入が観察できる。吉野川（旧吉野川）の下流においては第十堰より約二里の下流に立てた第六号水位尺を際限として、それより上流には来潮のある感じがしない。

かんがい
灌溉用水のこと

吉野川溪谷の特徴は、地質に特色がある点である。岩津より下流の広い平坦地と、それより上流の高低起伏のある地形とともに粗い土壌からなる。このため、長く湿潤の気をとどめることが出来ない。そのため、稲田として開墾するには適當とは言えない。巧みに水を引いて灌溉用水とする工事は、日本の他の川においてはよく見るところであるが、この地においては事情が違っている。ただ第十堰は、この種の工事といえるが、他にはまったく類がない。今この第十堰の保存される目的は、下流の洲嶼の水田のためであろうか。

洲嶼及び遠近の谷間にいくらかの水田がある他は、池田から下流の海浜に至る溪谷はことごとく藍を植えている。藍もまた、五・六

※第六号水位尺
添付図面参照

51m

5/1

亦五六月生長盛ナルノ季ニ当レハ常々之ニ灌漑ヲ要ス其
 之ニ灌漑スルノ方法タルヤ畦草ニ草斗ヲ用テ決地尋常ノ
 深サトスルニ町半乃至三町ノ井中ヨリ水ヲ得ルニ過ギズ。
 草斗ノ數ハ藍田毎段ニ平均一トスルモ無慮數千ナラントス
 。斯ル方法ヲ以テ藍田ニ水ヲ供給スルノ費用時トシテハ甚
 大ナリ若シ久シク兩ヲ得ザルハ三日毎ニ灌漑ヲ反覆シ毎回
 一段ニ充ツルノ費用金四十錢トセリ。輒近五八十年間ノ平
 均ヲ以テスレハ藍田一季間ニ灌漑スルノ八町ニ及ベリ故ニ
 毎段灌漑ノ費用ハ金三町式拾錢トナルナリ
 川ノ左右平地ノ大半ハ川流ヲ引テ灌漑ニ供用スルノ術ナキ
 ニ非ズ且ツ甚タ容易ナルノ地モアリ。適切ノ灌漑ヲ企圖シ
 其計畫ノ意ヲ充分ニ達セシメントスルニハ精細ニ高低測量
 ヲ驗ミンゴト緊要ナリ川ヨリ左方ハ巽然リ。川ヨリ右方ハ
 貞光及ヒ穴吹ノ近傍ニ松ケルカ如ク甚タ平坦ナルノ地僅ニ
 數ヶ所ナレ共之ニ川流ヲ引カントスルマ蓋シ又タ難カラズ
 。岩津ヨリ川島學ニ至ル沿川ノ平地モ川ノ右方ニ於ケルト
 同一ナリ直ニ上頂ノ平地ニ比ス。川島町ヨリ少許下流ニ至リテハ吉野
 川本流ヲ分引シテ厨ク平地ヲ過キ遙ニ鮎喰川ノ辺リニ達セ

月ノ成長期には、常に灌漑を必要とする。その方法はただ水汲み桶
 を用いて、平均の深さ二間半から三間の井戸より水を汲むに過ぎな
 い。水汲み桶の数は、藍畑一段（反）ごとに一個として、その数、
 無数である。こうした方法で藍畑に水を供給する費用は、時には甚
 大なものである。もし長いこと雨が降らなかつたならば三日ごとに
 灌漑をくり返し、毎回一段（反）にあてる費用は四〇錢になる最近
 の年間の平均では、藍田の一季に灌漑すること八回に及ぶ、このた
 め各段（反）の灌漑費用は三円二〇錢となる。

川の左右、平地の大半は川の水を引いて、灌漑に供用する方法が
 ないわけではない。またはなほだ簡単な土地もある。適切な灌漑を
 企画し、その計画の目的を十分に達しようとするならば、詳細に高
 低の測量をすることが必要である。川より左側（北岸側）ははっき
 りとそれが言える。川より右側（南岸側）は、貞光・穴吹の近
 傍におけるように平坦な地はわずか数か所であるが、これに川の水
 を引くのは難しいことではない。

岩津より川島町に至る川沿いの平地も、川の右側におけると同様
 である。

川島町よりわずかに下流に至っては、吉野川本流の水を引き、広
 く平地を過ぎ遙かに鮎喰川の辺りに達しているだけでなく、なお一

シムルノミナラズ尚一段遠キニモ連子及ボスヲ得ベキナリ
 諸谷内ニ暫々タル小臺ノ為ニ更ニ灌漑ノ潤沢ヲ擴充セント
 欲セハ宜シク水源ノ山邊ニ堰埭ヲ設ケ之ニ雨水ヲ留ムベシ
 其影響ハ左方水源ノ山林ニ及ビ草木ノ繁茂ヲ助クベシ
 第十村堰埭ノ為ニ流尾洲嶼ニ及ブ溉灌ノ澤ハ現今如何ヲ景
 況ナルカ後条別ニ説ク所アリ

山地ノ景況

夫レ劍山ノ周圍ニ積弊スル所ノ阿波國諸山ニ呈スル草木化
 生其他ノ概況ニ至テハ切！畑ノ害アルカ為ニ其富美ノ將ニ
 頤カントスルノ勢ハアレ共未タ以テ貧蕪ト謂フ可ラズ。遙
 ニ溪水ヲ疏シテ吉野川ニ送ル所ノ土塚阿國ノ諸山ニ於ケル
 モ亦草木繁生至テ美ナリ
 狩リ池田嶽養ノ町ニ屍立シテ阿讃ノ境界タル諸山ノミ其状
 態甚タ蕪蕪ヲ極ム斜坡南面此川ノ左側ニ在リ。該山諸洞ノ
 景況ハ附録第一ニ説明シ畧ホ之ヲ尽セリ復タ此所ニ蝶々セ
 不。都テ此山ヨリ砂砾ヲ流ス下流多ク本川下流ニ呈スル
 幾多ノ困難皆是ニ起因ス。民為ノ致ス所既ニ已ニ斯ノ惡果

貧蕪ニ土地が荒れ種草が茂っている

蕪蕪ニ土地が荒れてのこと

斜坡ノ坂
 味々々!!よみなくしやべる

段と遠い所まで引くことができる。

諸溪谷内の層になった小さな台地に灌漑しようとするならば、水
 源の山地に堰埭を設けてこれに雨水をためるべきである。その影響
 は左方(北岸)水源の山林に及び草木の繁茂を助けることができる。

第十堰のために、下流の洲嶼に及ぼす灌漑の恩恵は今いかなる状
 況であるかは後に説く。

山地の景況

劍山の周辺に集中する阿波の諸山に見える草木の成育などの概況
 は、切畑の害があるためその優美さは損なわれようとしているが、
 いまだ荒地というほどではない。

はるかに溪谷の水を吉野川に送っている土佐・伊予の両国の諸山
 においても草木繁茂し極めて美しい。

ただ池田・撫養の間に屏風のようにそびえ、阿波・讃岐の境界を
 なしている諸山(阿讃山地)だけはその状況は甚だ悪く、荒地地
 ある。讃岐山脈の南側は、この川(吉野川)の左側にあり、この山
 地の谷の状況は付録第一に概略を説明しているので、ここでは多く
 を語らない。すべてこの山より流れる砂礫は大変多く、本川(吉野